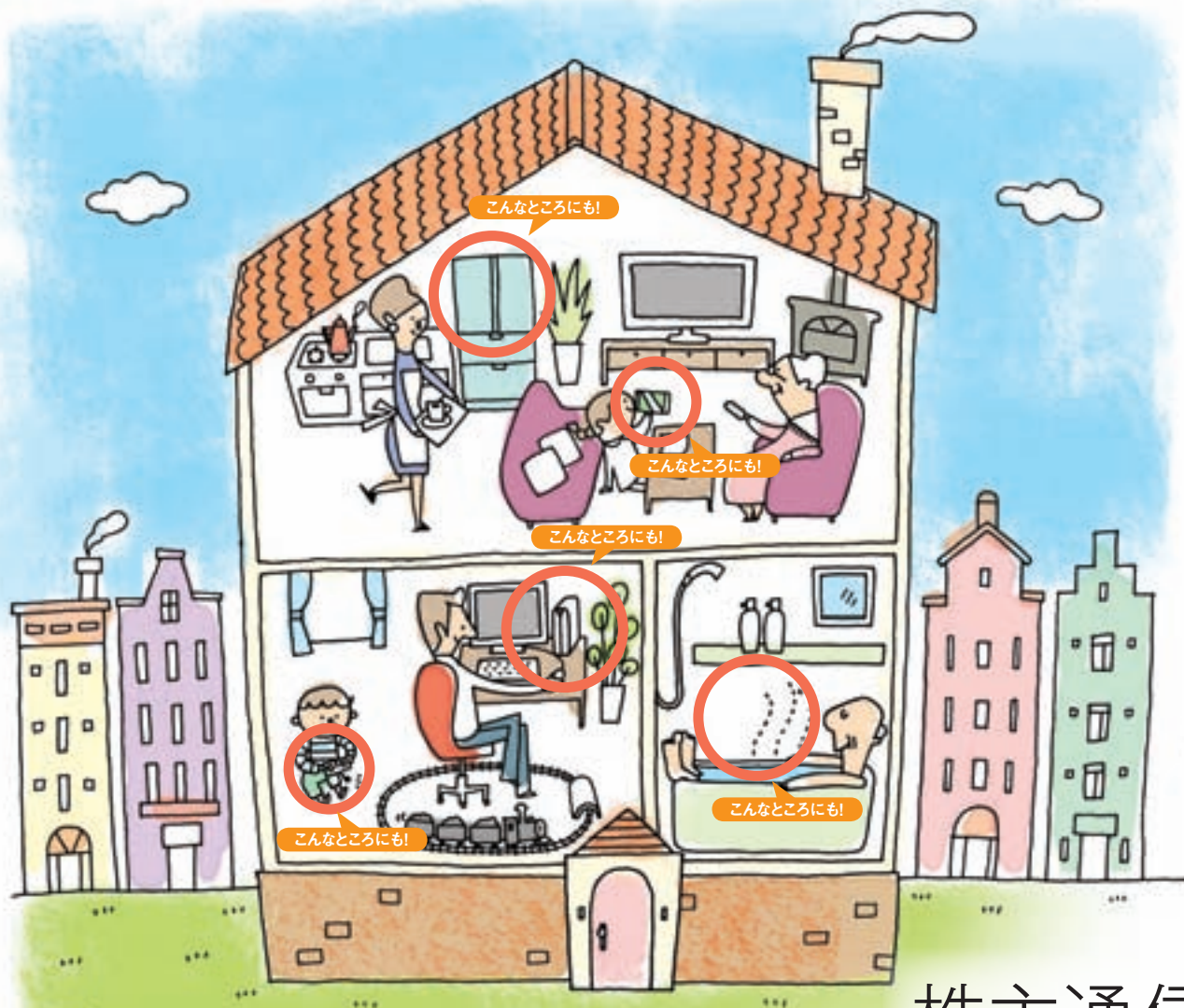


東 洋 鋼 鉄 の 製 品 が 私 た ち の く ら し の 中 に



新中期経営計画STEP UP 100 >>> P6

100周年へ向けて、海外展開の強化と  
新領域への進出でさらなる飛躍を

# 株主通信

第114期 中間報告書  
2010.4.1 >>> 2010.9.30

証券コード: 5453

 東洋鋼鉄株式会社

# ひと目でわかる 東洋鋼鈹

たとえば・・・

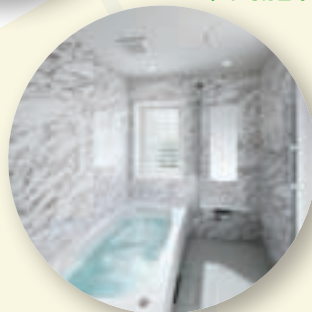
デスクトップパソコンに  
「磁気ディスク用基板」



食缶・飲料缶に  
「ぶりき・  
ラミネート鋼板」



ユニットバスの壁面に  
「樹脂化粧鋼板」



電池に  
「ニッケル  
めっき鋼板」



圧延

当社の  
コア技術

表面処理 ラミネート

日本で初のぶりきメーカー

冷蔵庫の扉に  
「樹脂化粧鋼板」



## 鉄

素材を自在に操る東洋鋼鈹。  
当社の技術力が毎日の暮らしに  
彩りを添えています。

私たち東洋鋼鈹は1934年に日本で民間初のぶりきメーカーとして誕生しました。  
歴史の中で培ってきた圧延・表面処理・ラミネート等当社独自の技術を発展させ、  
非鉄・樹脂等を精密加工することにより、世界の鉄鋼業で類をみないビジネスモデルの会社を目指しております。

## 当中間期のポイント

● **売上高** 61,504百万円  
(前年同期比 21.8%増)

● **営業利益** 5,183百万円  
(前年同期比 682.9%増)

● **経常利益** 5,142百万円  
(前年同期比 643.0%増)

● **当期純利益** 3,283百万円  
(前年同期比 604.3%増)

### POINT 前中期経営計画で断行した コスト削減の効果により大幅な増益を達成

前中期経営計画で強化した経営基盤をベースにあらゆる部門の生産性向上、原価低減、グループ企業との連携、協業強化に取り組んだ結果大幅な増益を達成

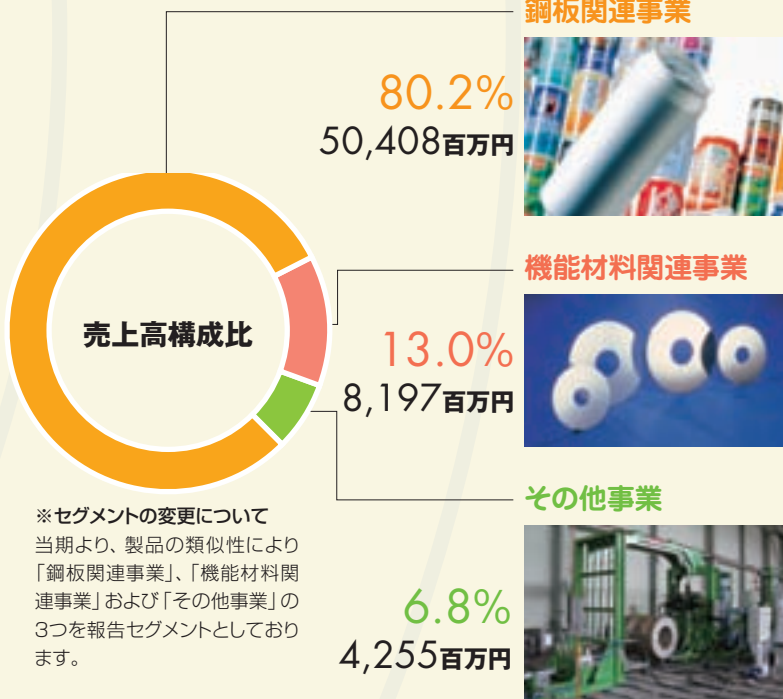
### POINT 鋼板関連事業が数量・収益の両面で堅調に推移

缶用材料、電池材、建築・家電向けが好調に推移した結果、鋼板関連事業は数量・収益の両面で堅調に推移

### POINT 機能材料関連事業が順調に推移

磁気ディスク用アルミ基板、光学用機能フィルムとともに需要が順調に推移

## セグメント情報



※セグメントの変更について  
当期より、製品の類似性により「鋼板関連事業」、「機能材料関連事業」および「その他事業」の3つを報告セグメントとしております。

なお、各事業の売上高は事業間の取引による金額を含んでおります。

### 鋼板関連事業



#### 【事業内容】

缶用材料・電気電子部品・建築向け材料・家電向け材料・自動車部品・産業機械部品の製造および販売

#### 【営業の概況】

・缶用材料は、工業用缶材が塗料・化学など産業用途が回復したこともあり、堅調に推移  
・建築・家電向けは、ユニットバス材・冷蔵庫扉材の当社のデザインが評価され好調に推移

### 機能材料関連事業



#### 【事業内容】

磁気ディスク用アルミ基板・光学用機能フィルムの製造および販売

#### 【営業の概況】

・磁気ディスク用アルミ基板は、サーバー用需要が堅調に推移  
・光学用機能フィルムは、好調な需要と市場で優れた機能を認められたことにより、順調に推移

### その他事業



#### 【事業内容】

梱包資材用帯鋼・機械器具・硬質合金の製造および販売

#### 【営業の概況】

・梱包資材用帯鋼は、需要が好調に推移  
・硬質合金は、主力の射出成形機部品の需要とプラスチック金型の需要が好調に推移

# 収益体質が大幅に改善 今後は中国市場の開拓や 新技術の開発に注力



代表取締役社長

## 田 中 厚 夫

第114期中間報告書をお届けするにあたり、  
代表取締役社長 田中厚夫へのインタビューを通して  
当グループの現状と今後の動向をご説明いたします。

**Q** 当中間期の業績について  
ご解説ください。

**A** 前中期経営計画で実行したコスト削減の  
効果によって、大幅な増益を達成しました。

上期の国内経済は一部産業で設備投資に持ち直しの動きが見られるなど、限定的ながらも各所に景況回復の兆しが見え始めました。当社においても鋼板関連を中心に受注が堅調に回復し、当中間期の連結経営成績は、売上高が615億4百万円（前年同期比21.8%増）、営業利益51億83百万円（前年同期比682.9%増）、経常利益51億42百万円（前年同期比643.0%増）、当期純利益32億83百万円（前年同期比604.3%増）となりました。主力の鋼板関連事業が大幅な増収増益となったことが業績回復に大きく貢献したほか、フラットパネルディスプレイなどに用いられる光学用機能フィルム、子会社の鋼板工業株式会社が手掛けている機械事業などの売上高も、目立って増加しています。

しかし上期業績のハイライトは何と言っても、鋼板関連の利益水準の大幅な改善に尽きると言えます。経常利益は前年同期の約7倍、金額にして約45億円も増加しました。この大部分は、内部努力、すなわちコストダウンによるものです。リーマンショック後の景気停滞を受けるなか、必死の努力で改善を行った結果、損益分岐点を大幅に引き下げること成功し、その後の売り上げ回復に伴う利益水準の改善につながったと実

感じております。我々はリーマンショックにより多くのことを学び、力強い組織体に変革しつつあります。

## 新中期経営計画「STEP UP 100」の始動から半年が経ちましたが、ここまでの手応えや成果についてお聞かせください。

### A 4月の組織改正の効果は絶大。各人が数字に対する責任を全うしようと全力を尽くしています。

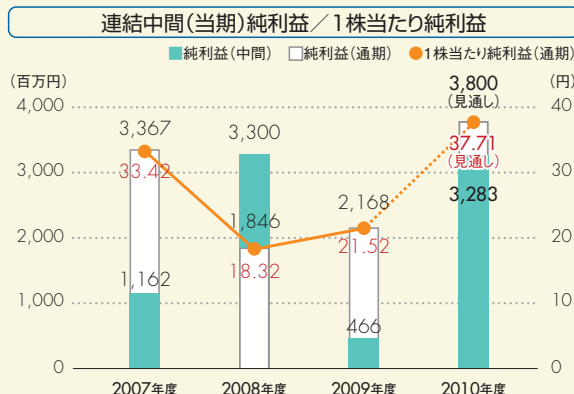
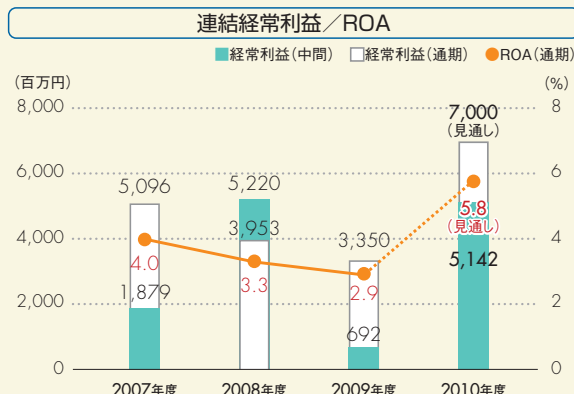
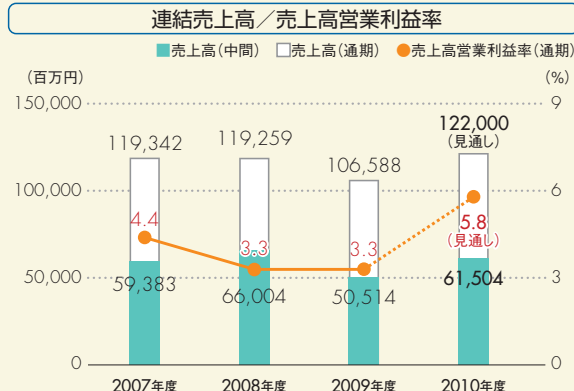
当上期の最大の成果は、4月に実施した大規模な組織改革の効果が出始めていることです。この組織改革では、従来の本部制を事業部門制に変更し、6つの事業部門のトップには役員を置き、事業責任を負わせることにしたのです。各事業部門がお客様に対して常に新たな価値を提案し、ニーズに迅速に対応できる開発型・提案型の組織への転換を促すと同時に、それをサポートする間接部門が有機的にリンクできる体制に整備するとともに、各々の組織の業務内容を「見える化」できる運動を展開しております。

その成果は早くも各所で現れています。これまでの東洋鋼鈹の組織は、営業は製品を売ること、資材調達については調達部門、生産については工場、という部分最適組織が長く続きましたが、資材調達から生産部門へ、SCM的思考への広がり、マーケットニーズの技術開発部門へのリンク応答性を高めるなど社内のあるところから新しいコミュニケーションの輪が広がっているのを実感しております。

## 「STEP UP 100」で掲げた目標の達成に向けた、今後の事業戦略をお聞かせください。

### A 産学連携の大型研究プロジェクトが複数進行中。中国市場の開拓も急ピッチで進めます。

「STEP UP 100」の「100」とは、当社の創立100周年（2034年）を意味しています。損益目標の最終年度は2012



年度ですが、我々はその後も100周年に向けて、さらにはそれ以降も、成長を続けていかねばなりません。そのためには今までの東洋鋼鈑の殻を破り、長期的な成長が期待できる新たなマーケットへと挑戦してまいります。

一つ目の挑戦は、当社が保有している技術を新たな分野に展開していくことです。一例をあげますと、独立行政法人産業技術総合研究所(産総研)と共同で、次世代太陽電池「CIGS太陽電池」向けの金属基板の開発を行っています。この開発には当社の圧延技術、めっき技術の応用が開発基盤ファクターになっています。このほかにも国、大学との複数の大型プロジェクトが始動しております。

もう一つは海外、とくに中国市場の開拓です。2009年4月に上海市で販売会社を設立したのを皮切りに、今年3月には湖南省株洲市でニッケルめっき鋼板の合併生産を開始、さらにこのほど、江蘇省呉江市に工業缶用ラミネート鋼板の製造子会社を設立しました。中国事業はかなりの急ピッチで拡大すると見込んでおり、いずれは国内生産と海外生産が肩を並べるくらいの規模になることを期待しております。このほか、東洋製罐株式会社と連携した形での海外展開も今後は増えてくるものと見込んでおります。

### 下期の事業環境と通期業績の見通しをお聞かせください。


**A** **再び暗雲漂う国内景況。売上高は伸び悩みますが、利益は引き続き高い水準を維持します。**

ようやく回復の兆しが見え始めた国内景況ですが、早くも先行き不透明感が広がっています。とくに急激な円高の進行などによる輸出産業の業績悪化が懸念される状況で、当社においても7月ごろから、受注に陰りが見え始めています。

こうした見通しに基づき、通期の連結業績については、売上高が1,220億円(前期比14.5%増)、営業利益71億円(前期比103.9%増)、経常利益70億円(前期比108.9%増)、



当期純利益38億円(前期比75.3%増)と予想しております。とくに懸念されるのが下期の為替レートですが、今のところ1ドル=80円と想定して計画を立てました。これだけの円高でも利益を出せるのが、今の東洋鋼鈑の強みですが、さらに深化させてまいります。

 **株主の皆さまへのメッセージをお願いします。**

**A** **中間・期末配当をそれぞれ4円に増配。今後も業績に応じた利益配分を通じて皆さまのご厚情にお応えすべく努めます。**

当社は将来の投資に向けた内部留保とのバランスを勘案しつつ、利益水準を考慮した配当を実施することを基本姿勢としており、当中間期の配当金につきましては、前年同期から1円増配し、1株当たり4円とさせていただきます。期末配当金も1円増配の4円を予定しており、年間配当金は1株当たり8円となる計画です。

東洋鋼鈑は今、本当に大きく変わろうとしています。社員一人ひとりが一生懸命に考え、努力しています。社内改革が未だ緒についたばかりの会社ではありますが、等身大の我々の姿をご覧いただければ、当社のこれからの成長を確信していただけるものと自負しております。

株主をはじめステークホルダーの皆さまにおかれましては、今後ともより一層のご支援ご鞭撻を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

# 100周年へ向けて、海外展開の強化と新領域への進出でさらなる飛躍を 新中期経営計画 STEP UP 100

本2010年度から、100周年に向け高い目標を掲げ、3か年の新中期計画『STEP UP 100』を策定し、将来におけるありたい姿と経営理念の実現に向け、経営資源を柔軟に投入し、目標達成に邁進してまいります。

## 東洋鋼鉄グループの経営理念

- ・ 永続的に有益な価値を提供し、地球環境や社会の進歩に貢献します。
- ・ すべての社員が豊かな社会生活を営む環境を作ります。
- ・ 常に新しい技術の可能性を追求し、成長する企業であり続けます。

## 基本的な考え

事業部門の責任の明確化

間接部門の生産性向上

グループ企業との連携、協業強化

## 損益目標

(単位：億円)

	実績		計画	
	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度
売上高	1,065	1,130	1,230	1,280
営業利益	34	55	75	90
経常利益	33	54	74	89
当期純利益	21	30	45	55
売上高営業利益率	3%	5%	6%	7%

## セグメント別数値目標

(単位：億円)

	2012年度目標		
	売上高	営業利益	売上高営業利益率
鋼板関連事業	980	53	5%
機能材料関連事業	215	28	13%
その他事業	85	9	11%
合計	1,280	90	7%

## 事業戦略

既存事業の  
開発・提案型  
組織への転換

新規市場開拓  
および  
新規事業創出

## 各セグメント別の戦略

### 鋼板関連事業

- 環境関連、エネルギー分野への事業領域拡大 **P.7**
- 中国販売子会社を中心とした営業・生産拠点の拡大による多面的事業展開 **P.8**

- 東洋製罐グループ企業との連携による飲料缶の海外市場獲得

### 機能材料関連事業

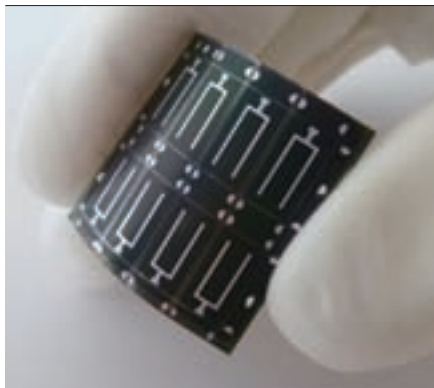
- フラットパネルディスプレイ向け光学用フィルムの事業規模拡大
- 磁気ディスク用基板のモバイル市場参入

### その他事業

- 機械事業における顧客ソリューションビジネスの展開

環境関連、エネルギー分野への事業領域拡大

# 成長が期待される 環境・エネルギー分野への注力



セラミックス基板を用いたフレキシブルCIGS太陽電池

## CIGS太陽電池<sup>\*1</sup>用低コスト金属基板の開発

当社と独立行政法人産業技術総合研究所は、次世代太陽電池として需要の拡大が見込まれているCIGS太陽電池において、当社が開発した低コストの金属基板を用いて高効率を達成しました。近年、世界的に太陽光発電に対する関心が高まっており、主流である結晶系シリコン太陽電池以外にもさまざまな種類の太陽電池が市場に登場するようになってきています。中でも、CIGS太陽電池は、現在市販されている薄膜系太陽電池の中で最も変換効率が高いほか、経年劣化がなく長期信頼性に優れているため低コスト化も期待され、黒一色のシックな外観からも注目をあびています。当社は今回開発した金属基板の製品化を2011年ごろに目指しています。

## ZEB<sup>\*2</sup>化に対応する光ダクトの開発

現在、環境に配慮する中でZEB化という言葉が注目をあびてきています。そのZEB化により政府で推奨している技術のひとつが光ダクトです。内面に反射材を巡らせたダクトで反射を利用し太陽光を窓のない部屋や地下に運び、照明として利用するシステムです。このシステムに使用されている反射材「ミラーコートK」の反射率は95%、鋼板に銀めっきを施した他に類を見ない高効率反射材です。当社はこれを用いた光ダクト製品「どこでも光窓」を販売しています。



階段を自然光で明るく

キッチン、リビングに

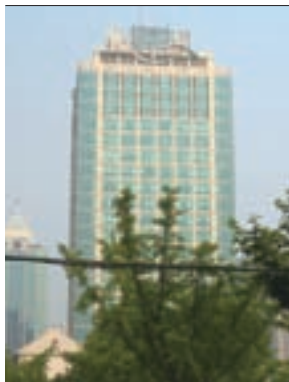
※1【CIGS太陽電池】 CIGSはCu,In,Ga,Se(銅、インジウム、ガリウム、セレン)の4つの元素の頭文字をとったものです。CIGS太陽電池はシリコンの代わりに、この4つに代表される元素を混ぜ合わせて使います。

※2【ZEB】 Zero Energy Buildingの略称で建築物や設備の省エネ性能を向上させたり、施設間で余剰エネルギーを融通しあったり、また、再生可能エネルギーを活用したりすることで、限りなくCO<sub>2</sub>排出量を抑制した建築物をいいます。



中国販売子会社を中心とした営業・生産拠点の拡大による多面的事業展開

## 需要が増える 中国での体制を強化



### 上海東洋鋼板商貿有限公司を設立

2009年4月、中国・上海に上海東洋鋼板商貿有限公司を設立しました。今後も成長が見込まれる中国市場において鋼板関連事業、硬質材料、自動結束機および機械部品の拡販やアフターサービスの強化、新たな事業展開の拠点設立を目的としています。

### 湖南東洋利徳材料科技有限公司を設立

2010年3月、中国においてニッケルめっき鋼板を製造・販売する合弁会社「湖南東洋利徳材料科技有限公司」を設立しました。中国で既にめっき事業を営む湖南利徳集団と合弁会社を設立することで、中国の電池・燃料パイプ市場でのニッケルめっき鋼板事業の展開を強化し、今後、この合弁会社を中国におけるめっき鋼板の生産拠点として位置づけていきます。



こうそ

### 江蘇東洋鋼板新材料科技有限公司を設立

中国市場において塗料缶用として高品質なラミネート鋼板の需要が見込まれるため、2010年9月に工業缶用ラミネート鋼板の製造子会社「江蘇東洋鋼板新材料科技有限公司」を設立し現地生産を開始することとしました。生産能力は1万8千トン／年で、2011年7月営業生産開始の予定です。

# CONSOLIDATED FINANCIAL STATEMENT

連結財務諸表

## ■ 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当中間期 2010年9月30日現在	前期 2010年3月31日現在
資産の部		
流動資産	68,323	61,263
固定資産	53,822	56,030
有形固定資産	47,630	49,124
無形固定資産	658	678
投資その他の資産	5,533	6,227
<b>① 資産合計</b>	<b>122,145</b>	<b>117,293</b>

科目	当中間期 2010年9月30日現在	前期 2010年3月31日現在
負債の部		
流動負債	42,732	35,298
固定負債	1,610	6,984
<b>② 負債合計</b>	<b>44,342</b>	<b>42,282</b>
純資産の部		
株主資本	76,772	73,792
評価・換算差額等	△ 545	△ 319
少数株主持分	1,575	1,538
<b>③ 純資産合計</b>	<b>77,803</b>	<b>75,011</b>
負債純資産合計	122,145	117,293

## ■ 連結損益計算書

(単位：百万円)

科目	当中間期 2010年4月1日から 2010年9月30日まで	前中間期 2009年4月1日から 2009年9月30日まで	前期 2009年4月1日から 2010年3月31日まで
<b>④ 売上高</b>	<b>61,504</b>	<b>50,514</b>	<b>106,588</b>
売上原価	51,163	45,345	93,674
売上総利益	10,340	5,169	12,913
販売費および一般管理費	5,157	4,507	9,431
営業利益	5,183	662	3,482
営業外収益	198	234	351
営業外費用	238	204	483
経常利益	5,142	692	3,350
税金等調整前中間(当期)純利益	5,142	832	3,490
中間(当期)純利益	3,283	466	2,168

## POINT

### 【資産の部】①

総資産は、前期に比べ48億51百万円増加して、1,221億45百万円となりました。このうち流動資産は現金預金の増加等により、前期に比べ70億59百万円増加しました。固定資産は、有形固定資産が減少したこと、保有株式の時価の下落により投資有価証券が減少したこと等により、前期に比べ22億8百万円減少しました。

### 【負債の部】②

負債は、未払法人税等、たな卸資産等の仕入債務の増加等により、前期に比べ20億60百万円増加して443億42百万円となりました。

### 【純資産の部】③

純資産は、前期に比べ27億91百万円増加して778億3百万円となりました。これはその他有価証券評価差額金が減少したものの、利益剰余金が増加したこと等によるものであります。

## POINT

### 【売上高について】④

売上高は、前年同期に比べ109億89百万円増加して615億4百万円となりました。これは鋼板関連事業・機能材料関連事業・その他事業の販売がともに堅調に推移した結果であります。

# CORPORATE PROFILE & STOCK INFORMATION

会社概要／株式の状況  
(2010年9月30日現在)

## 会社の概況

商号	東洋鋼板株式会社
本社	東京都千代田区四番町2番地12
設立	1934年4月11日
資本金	50億4,000万円
従業員数	2,272名(連結)
事業所	本社(東京都)、大阪支店、仙台営業所、名古屋営業所、広島営業所、福岡営業所、技術研究所(山口県下松市)、下松事業所(山口県下松市)

## 役員

取締役会長	三木 啓 史	常勤監査役	鈴木 伸 賢
代表取締役社長	田中 厚 夫	常勤監査役	田口 輝 彦
取締役専務執行役員	藤井 厚 雄	監査役	宮本 光 晴
取締役専務執行役員	富永 勝 彦	監査役	大川 邦 夫
取締役常務執行役員	吉武 潤 一郎	常務執行役員	藤井 正
取締役常務執行役員	宮地 正文	常務執行役員	大谷 憲 史
取締役常務執行役員	坂本 信 夫	執行役員	毎田 知 正
取締役常務執行役員	辰巳 英 之	執行役員	外川 照 義
取締役	山本 敏 雄		

## 東洋鋼板グループ

### 国内

鋼板商事株式会社  
鋼板工業株式会社  
KYテクノロジー株式会社  
東洋パックス株式会社  
共同海運株式会社  
下松運輸株式会社  
東洋パートナー株式会社

### 海外

TOYO-MEMORY TECHNOLOGY SDN.BHD.  
上海東洋鋼板商貿有限公司  
湖南東洋利德材料科技有限公司  
江蘇東洋鋼板新材料科技有限公司

## 株式の状況

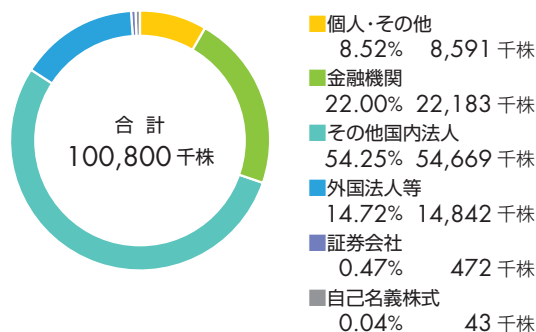
発行可能株式総数	403,200,000株
発行済株式の総数	100,800,000株
株主数	3,079名

## 大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
東洋製罐株式会社	47,885	47.5
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	3,556	3.5
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	3,463	3.4
株式会社三井住友銀行	2,980	3.0
CBNY DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	2,110	2.1
公益財団法人東洋食品研究所	2,055	2.0
三井住友海上火災保険株式会社	1,680	1.7
BBH(LUX) FIDELITY FUNDS - JAPAN ADVANTAGE	1,627	1.6
THE CHASE MANHATTAN BANK, N. A. LONDON SECS LENDING OMNIBUS ACCOUNT	1,438	1.4
株式会社淀川製鋼所	1,429	1.4

(注)持株比率は自己株式を除いて計算しております。

## 所有者別株式分布状況



## 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
定時株主総会 毎年6月開催  
基準日 定時株主総会 毎年3月31日  
期末配当金 毎年3月31日  
中間配当金 毎年9月30日

株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号  
住友信託銀行株式会社

同事務取扱場所 東京都中央区八重洲二丁目3番1号  
住友信託銀行株式会社証券代行部  
(郵便物送付先) 〒183-8701  
東京都府中市日鋼町1番10  
住友信託銀行株式会社証券代行部

(電話照会先) ☎0120-176-417  
(インターネットホームページURL) <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>

公告方法 電子公告(当社ホームページ  
<http://www.toyokohan.co.jp> に  
掲載いたします。)  
ただし、事故その他やむを得ない事由によっ  
て電子公告による公告をすることができない  
場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

## アンケートにご協力ください

株主の皆さまのご意見・ご要望を当社IR活動に反映させるべく、株主アンケートを実施いたします。お手数ですが、本報告書に同封のアンケートハガキにご回答の上、ご返送くださいますようお願いいたします。お一人でも多くの株主様からのご意見をお待ちしておりますので、ご協力をお願いいたします。

## 東洋鋼鉄株式会社

〒102-8447 東京都千代田区四番町2番地12  
電話 (03)5211-6211(代表)  
ホームページURL <http://www.toyokohan.co.jp>



## ホームページのご案内

### コーポレートサイト



当社のホームページでは、投資家の皆さま向けのIR情報をはじめ、最新のニュースをお知らせするWhat's New、当社の製品を紹介する製品開発ストーリーなど、さまざまな情報を掲載しております。

<http://www.toyokohan.co.jp>

### IRサイト



IRサイトでは適時開示情報をはじめ、決算短信などの各種IR関連資料やIRトピックス、株価情報など最新の情報を提供しております。

<http://www.toyokohan.co.jp/ja/ir/index.html>